



ナイロン100℃

25 YEARS ANNIVERSARY

NYLON100℃

45th Session

【作・演出】ケラリーノ・サンドロヴィッチ

百年の秘密

THE ONE HUNDRED YEARS OF SECRETS

WRITTEN & DIRECTED BY KERALINO SANDOROVICH

ACTED BY INURO INUYAMA, RIE MINEMURA

MINOSUKE, KOJI OHKURA, REIKO MATSUNAGA, NOZOMI MURAKAWA, NAO OSADA, MITSUNORI HIROKAWA, OHGUSA YASUZAWA, HIDEYO FUJITA
SANSIRO INOMATA, MEIMEI KIRUCHI, MANA OZONO, YUKI KONOE, GAMU IYOSKE AND
MASATO HAGIWARA, YUKI IZUMISAWA, RISAKO ITO, ATSUSHI YAMANISHI

2018. 5/8 TUE 18:00 · 9 WED 13:00

穂の国とよはし芸術劇場 PLAT 主ホール
TOYOHASHI ARTS THEATRE PLAT MAIN HALL



ナイロン100°C
百年の秘密
 THE ONE HUNDRED YEARS OF SECRETS

【作・演出】
 ケラリーノ・サンドロヴィッチ

【出演】
 犬山イヌコ 峯村リエ

みのすけ 大倉孝二 松永玲子 村岡希美 長田奈麻 廣川三憲 安澤千草 藤田秀世
 猪俣三四郎 菊池明明 小園菜奈 木乃江祐希 伊与勢我無/
 萩原聖人 泉澤祐希 伊藤梨沙子 山西 惇

STAFF

音楽：鈴木光介 美術：BOKETA 照明：関口裕二 音響：水越佳一
 映像：上田大樹 衣裳：宮本宣子 ヘアメイク：宮内宏明 ステージング：長田奈麻
 演出助手：相田剛志 舞台監督：竹井祐樹 福澤諭志

宣伝美術：榎本太郎 宣伝写真：倭田宏樹 宣伝衣裳：宮本宣子 宣伝ヘアメイク：山本絵里子 浅沼 晴
 制作：佐々木 悠 瀬藤真央子 川上雄一郎 仲谷正資 尾崎裕子 栗券：北里美織子 広報宣伝：米田律子 プロデューサー：高橋典子
 製作：北牧裕幸

協力：アクロスエンタテインメント アノレ アルファエージェンシー オフィスPSC kitokito
 krei シス・カンパニー ダックスーパ マッシュ リコモーション

企画・製作：シリーワーク キューブ

2018年5月8日(火) 18:00
 9日(水) 13:00 ※開場は開演の30分前

チケット発売

会員先行：2018年2月10日(土) 10:00～
 (プラットフレンズ・豊橋文化振興財団維持会員)

一般発売：2018年2月24日(土) 10:00～

〈料金〉

全席指定・税込

S席 5,000円 A席 4,000円 B席 3,000円

U24(B席)=1,500円 高校生以下(B席)=1,000円

※U24(24歳以下対象)・高校生以下は、一般発売日からプラットチケットセンターにて取扱い。

一人1枚・枚数限定・座席指定不可・入場時本人確認書類提示。

※未就学児のご入場はご遠慮いただきます。

◆車椅子スペース：定員有り・要予約。プラットチケットセンター(電話・窓口)にて取扱い。

車椅子利用のお客様は、事前にプラットチケットセンターまでご連絡ください。

〈チケット取扱い〉

▶ プラットチケットセンター

窓口・電話 0532-39-3090 (休館日を除く10:00～19:00)

オンライン <http://toyohashi-at.jp> (24時間受付・要事前登録)

▶ チケットぴあ

0570-02-9999 (Pコード：484-0777) <http://pia.jp/> (PC・携帯)

〈お問い合わせ〉

プラットチケットセンター

0532-39-3090 (休館日を除く10:00～19:00) <http://toyohashi-at.jp>



豊橋駅(JR東海道新幹線、東海道本線、名古屋鉄道)、新豊橋駅(豊橋鉄道東海線)直結。豊橋駅南口から徒歩3分。*駐車場はございません。公共交通機関やお近くの公共駐車場をご利用ください。豊橋駅前大通公共駐車場(第1・第2)・パーク600をご利用の場合、駐車料金が30分150円が5:30分100円に割引(上限4時間)になります。

『百年の秘密』はあの震災の翌年に初演された。二人の女性の奇妙な友情を軸に、彼女達をとりまく人々に訪れた「日常の数十分」をいくつ切り取り、約80年という長いスパンで、但し時系列に添うことなく並べたクロニクル。劇中に震災を想起させるような要素は皆無だが、執筆≠稽古中、ずっと頭にあったのは、幸せとは言えぬ亡くなり方をした方々の、その人生を引くくめて「悲惨」と称してしまうことへの反発と、そう称されてしまう人生たちへの擁護だった。「終わり良ければ」は人の一生には当てはまらないのではないか。別の言い方をすれば、そもそも悲惨でない人生なんてないんじゃないか。そんな気持ちだった。

「どうしても再演しておきたい公演」というのは滅多にない。「どうしても」となると、劇団での上演に関しては、今やこの作品が唯一。最後の一本だ。再演時に取材をお受けすると、まず「どうしてもこれを今再演したかったでしょう」と聞かれる。そんなこと聞かれても、再演しなかったからです、としか言い様がない。どうしても再演しなかった。

実は初演時から「絶対再演したい」とプロデューサーに直訴していた。初演の出来が悪かったからとか、観客の評判が良かったからではない。強いて言うなら、作品側から求められていたのだ。

ナイロン25周年に相応しい、決定版再演にします。ぜひとも足を運び頂きたい。

主宰 ケラリーノ・サンドロヴィッチ